

～あした、転機になあれ！～

美し島から... 哲楽さびら。

職場を元気にする哲楽レシビ その十三

「男女のちがいを哲楽すると.....」

生理的にイヤになる前に
予防と対策を！

「人間関係って、面倒くさい……」
ため息をつきながら、肩を落と
している男性リーダーに出会うこと
が、ある時期から増えてきました。

共通点のひとつは、多くの女性ス
タッフを束ねていること。「黒一点」
というのは、想像以上に苦労が多い
ようです。

このところ、研修・講演のご依頼
に「男女共同参画」のテーマが加わっ
てきたのですが、どうやら関係があ
るような気がしています。

「男女」という違いは、トイレの
ようにわかりやすく別になってい
るわけではなく、男性・女性ともに、
それぞれの個性があります。ただ、
しばしば傾向があるというのは感じ
ます。その中でも、私が男女のコミュ
ニケーションの違いについて、実感
したエピソードをお届けします。そ
れは、とある企業の男性リーダーの
研修で出会った「運命の質問」がき
かけでした。

「生理的にイヤなので」というの
は、どういうことですか？

一瞬、何ともいえない空気が流れ
たのを覚えています。リーダー研修
の参加者は、全員男性。その場で偶
然にも、唯一の女性となつてしまっ
た私の答えに、注目が集まりました。

どうやら、それぞれに「思い当たる
出来事」があったようです。

男性リーダーの声に耳を傾ける
中、女性スタッフが異動や退職を申
し出るときに、しばしば登壇するフ
レーズであることが見えてきまし
た。ところが、この「生理的にイヤ」
という感覚が、どうも男性にはピン
とこないようでした。

このことを女性スタッフの方々の
研修などで伝えると、女性の方が
ビックリされます。ここには、大き
な男女差があると感じました。

興味深い問題なので、私は、男女
どちらにも、機会を見つけては話を
聞かせてもらうことにしました。す
ると、男性でも「生理的にイヤ」と
思うことはあるという人は何人か
いましたが、それでも仕事なら割り
切って付き合うとの答え。

一方、女性は「イヤなものはいや」
であり、一度この域まで感情（関係
ではなく）がこじれてしまったら、
男性には挽回のチャンスがほぼない
という厳しい現実も見えてきまし
た。だからこそ、こうなる前の予防・
対策がとても重要だと感じます。

一緒に仕事をしたくない・口もき
きたくない、だけではなく、「同じ空
気を吸うのもイヤ」というのは、本
当に厳しいなど衝撃を受けました。
でも、これは短期間でそうなるわ
けではなく、小さく積み重なったも

のがある日、顔を出すのだというこ
ともわかってきました。「ガマンの
層」が、地層のように重なっている
のです。

あきらめ・きめつけは
男女どちらにとっても禁物

「ガマン」には音がありません。
なので、意識しなければ気づきにく
いのですが、それでも、表情や
仕事の効率の変化などに、小さな
サインは出ていることは多いもの。
ちよつとした対話の中で「アレ？」
という何かをキャッチできるかも知
れません。「何かあったら、いつで
も言つてね」というひと言を付け加
えるだけで、ガマンの前に、教えて
くれることもあるようです。

「どうせ、わかつてくれない」
この「あきらめ・きめつけ」は、
男女どちらにとっても禁物！そし
て、私が見つけた男女共同参画のた
めのキーワードは「リカイ（理解・
ワカイ（和解）・ユカイ（愉快）」。

仕事の話はもちろん、雑談も含め
て、とにかく話をして理解を深める
こと＝理解。ガマンせず遠慮せずこ
まめに話し合い、小さな誤解のうち
に解くこと＝和解。ちがいはあつて
も、どちらが正しいとか、間違いと
いうことではないと心得て、白黒つ
けずに、色とりどりのグラデーション

ンのまま一緒に面白がってしまう＝
愉快。

こうすれば、男女に限らず、世代・
部署・業種・立場・生まれ育った環境
など、さまざまなかちがいををもつ
人が笑顔になれるはずだと思うので
す。

顔には好みがありますが、これま
で私が出会ってきた中で、「笑顔が
キライ」という人はいませんでした。
これは、私にとって大きな希望です。
あした：転機に：笑顔になあれ！

その「ちがい」...
ホントに「まちがい」？



紀々（きき）

哲學家。那覇市出身。1998年に早稲田大学第一文学
部哲学科東洋哲学専修を卒業。「自ら考え、自ら動く
力を磨く社員研修を」との依頼を受け、「哲楽のチカラを
を、笑顔のチカラに」をテーマに、さまざまな企業
現場でサポートを行っている。特に「若手リーダー・
女性スタッフがイキイキ元気に働ける職場づくり」を
哲楽する研修は、好評。現在は、沖縄の表現で「Let's
哲楽」を意味する「哲楽さびら。」を合言葉に、沖縄
発で職場に哲楽習慣・風土を広めるべく活動を展開中。

